

平成29年8月1日号 (No.178)

「 非日常を楽しむ 」

伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎

夏休みに入って10日ほどが経ちました。子ども達のいない学校には、あの日頃の喧騒とした学校とは違う感覚があります。

毎日新聞の余録に、その日常とは違う感覚について次のような記事が出ていました。それは、「…、今はめったに見なくなりましたが、江戸後期から広まった夏の風物詩に『金魚玉』がある。丸いガラス容器に金魚を入れて軒先につるす。レンズ効果もあり、下から見上げるといつもと違う金魚が楽しめた。『妙なところが映るものかな金魚玉』（下田実花）…」というものです。普段とは違う角度から金魚を見ること（非日常）で違った新鮮な感覚を楽しんだのでしょう。



【総合教育センター
グリーンカーテン前で】

さて、私たちは、昔から日頃の生活とちょっと違う感覚を求めたり、楽しんだりする習慣があります。動物は、毎日同じことを繰り返しても飽きるとか、つまらないとかの感情をもたないそうです。むしろ日常とは異なる刺激が入ってくるとストレスを感じてしまいます。ひどい時は、環境が少し変わっただけで死んでしまう動物もいます。それに比べると、人間は、同じことの繰り返しがマンネリを生み、やる気や生きる意欲を減少させることがあります。そこで、人間はいつもと違った新鮮な感覚を求めます。それが非日常です。

夏休みは、教師にとって非日常を楽しむことができる数少ない機会です。旅行に出かけるもよし。海や山に行くもよし。読書や映画三昧もまたよしです。日頃できないことをおおいにするべきだと思います。

中国の陶潜（陶淵明）が書いた『雑誌』の中に「時に及んで当に^{まさ}勉励すべし、歲月は人を待たず」という言葉があります。訳すと「ここその時機を逃すことなく、何事も励むべきである。歲月は人を待ってくれず、たちまち過ぎるものである」、言い換えると、ぼやぼやしていると楽しい時を逃し、充実した時間を味わうことなく年老いてしまうかもしれない。だからその時々^{まさ}に真剣に向かい合うことが大事であるという意味です。この夏休み（時機）を逃すことなく、非日常を楽しんでほしいものです。そして、それが2学期への活力に繋がることを期待しています。

思考を深める「話し合い活動」



新しい学習指導要領では、生きる力をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な**思考力、判断力、表現力**等をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うために、言語活動を充実するとしています。

今回は、**思考力・判断力・表現力**等をはぐくむために、授業の中の様々な場面で行われる「話し合い活動」に注目したいと思います。
話し合いによって、子どもの個々の思考が揺さぶられ、自分の考えが深まり、ひろがるのが大切です。
具体的な話し合い活動の進め方とポイントについて考えましょう。

めあての設定

思考を深めるのに適切な話し合い活動のめあてを設定する

- 「比較する」、「類推・推論する」、「理由や原因を考える」、「部分と全体をつなぐ」など、思考を深めることができるようなめあてを設定する

よい「めあて」 ○

- 前の場面と比べて登場人物の心情がどのように変化したか、グループで考えよう【比較】
- 相似な三角形を見つけ、相似になる理由をグループで考えよう【理由や原因】

わるい「めあて」 ×

- ▲ この場面の登場人物の心情について、グループで考えよう
- ▲ 相似な三角形を見つけ、特徴を話し合おう

個人思考の時間確保

自分の考えをしっかりと持つ

- 個人思考(一人学び)の時間を十分に確保する
- 自分の考えをノートに書かせる
- この時間に、しっかりと**机間指導**をして、個人の考えを把握しておく
- 考えを書くことができていない子がいる場合、思考の手助けとなるような「**ヒントカード**」等を用意してわたす

【机間指導の視点】

- 学級全体で多い(少ない)意見は何か
- どんな根拠を書いているか

共有とふり返りの実施

話し合った内容を発表し、全体で共有した後、個人でふり返る

- 発表する
 - 課題の内容や学級の実態、学年に合わせて発表方法を設定する (ICTやミニホワイトボードを使って説明する等)
- ふり返りをする
 - 必ず、この授業を通して**何が分かったか**をまとめる
 - 個人のふり返りをノートに書かせる
 - この時、**ねらいにそってふり返りをする**ことが大切



「話し合い活動」の実際

① 話し合いの目的を明確にする

1) 『**相互交流**』型・・・自分の考えを**広める**話し合い

- お互いの考えや意見を出し合う
- ➔ グループで考えや意見を深める
- ➔ 話し合いをふり返る

2) 『**合意形成**』型・・・意見を**しぼる**話し合い

- お互いの考えや意見を出し合う
- ➔ グループで考えや意見を一つにまとめる
- ➔ 話し合いをふり返る



② 話し合いの方法を確認する

思考を**可視化**することがポイント!

- 自分の考えを**付箋**に書いて模造紙に貼る (KJ法)
- 班ごとに**ミニホワイトボード**に意見をまとめる
- シンキングツール(ベン図・フィッシュボーン等)を用いる

➤ 言いつぱなし、聞きつぱなしはダメ!

- ➔ 相づちを打つ・意見を言う・アドバイスをする・賛成か反対かを示すなどの反応をする
- ➔ 自分の意見が変わった時や、自分と異なる意見や新しい気づきがあった時には赤字でノートに書くなど記録する



ポイント!

③ 話し合いの仕方を確認する

- **役割(司会・記録・発表 等)を決める**
- **全員に役割がある**ことが大切
- **全員に発言が保証**されるようにする
- 付箋を模造紙に貼る➔自分の考えを述べる➔根拠を示す・・・など、何をどのような順で話すのかを明らかにする
- 時間の設定は最初に明らかにし、何度ものばさないようにする

スムーズに話し合うには、**司会の力**が必要

そこで・・・

司会者マニュアルを学級や学年、学校で作成し、司会をする力を育てる

④ 話し合いを支援する

話し合い活動中こそ**教師の出番!**

- 「話し合い活動に参加できていない子」がいるときは、司会やグループのメンバーに声をかけ、全員が参加できるように働きかける
- 「話し合いの目的・方法・仕方を理解できていない子(グループ)」がいるときは、個別に具体的に説明する
- 「話し合いに深まりのないグループ」があるときは、司会者に助言し、出た意見を違った面から考えたり、立ち止まって詳細に考えたりできるようにする

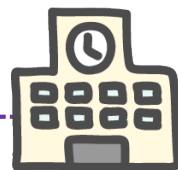
「活動あって学びなし」ではダメ!

不登校児童生徒等に対する 夏季休業中の関わりについて

- 夏季休業中は、不登校児童生徒の**学校復帰に向けて非常に大切な時期**です。
- 2学期からの学校復帰に向けて、**夏季休業中にしなければならないこと**について考えましょう。

1. 学校復帰に向けて

2学期からの学校復帰につながる**具体的な取り組み**を進める



- ① 不登校児童生徒についてのケース会議
- ② 保護者との懇談会
- ③ 家庭訪問
- ④ 手紙やはがき(残暑見舞い等)による連絡
- ⑤ 関係機関との連携
- ⑥ 不登校問題に係る研修会等への参加

2. 組織対応で未然防止

欠席日数が30日に至らないまでも、何らかの不登校の兆候が見られたり、「登校しぶり」や「欠席がち」の児童生徒に対しても、**組織的な対応(ケース会議等)**を行い、一人一人の今後の具体的な対策を練っておく。

【ケース会議のメンバー(例)】

学級担任・関係教員・管理職・生徒指導担当者・不登校担当教員・養護教諭・SC(スクールカウンセラー)・SSW(スクールソーシャルワーカー)等

3. 関係機関との連携

夏季休業中に関係機関との連携を図り、情報交換を行って**児童生徒の様子を把握**する。

また、適応教室「やまびこ館」、第2適応教室「学習支援室」への通館児童生徒に対しては、伊丹市立総合教育センターとの**連絡会**を持つなど、連携した指導を行う。

【関係機関】

学校指導課(SSW等)・総合教育センター(適応教室「やまびこ館」、第2適応教室「学習支援室」、教育相談室、SCの配置)・少年愛護センター(相談対応等)・警察・兵庫県立但馬やまびこの郷等の施設等

4. 校種間連携

情報交換会や合同研修会を持ち、**校種間での情報交換**を密に行う等、連携した指導を行う。

5. 夏季休業後に気をつけたいこと

- 生活リズムがくずれている等の理由により、夏季休業後には**不登校児童生徒が増加**する傾向にあります。
- 特に、夏休みの**課題ができていないこと**に不安を覚えた児童生徒が不登校になる事例も見られるので、一人一人のケースに応じた丁寧な対応を心がけることが大切です。
- 2学期は大きな**行事**への取り組みが始まります。集団になじみにくい児童生徒にとっては、そういった**行事への取り組みがストレス**になり、登校をしぶり始めることもあります。一人一人の様子に注意深く目を向けましょう。

発行 伊丹市立総合教育センター

月～金 9:00～21:00 所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番 TEL 072-780-2480 FAX 072-780-2482
土 9:00～17:00

休館日 日曜・祝日・年末・年始 総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>